

番号	6 - 2	申請者	看護師 長谷 歩美
【審査申請課題】 退院支援実践自己評価尺度（DPWN）を用いた地域包括ケア病棟看護師の退院支援実践能力の実態調査			
【審査課題の概要】 地域包括ケア病棟は、急性期医療と在宅をつなぐ役割を担っており、ポストアキュート・サブアキュート・在宅復帰支援が求められている。 なかでも在宅復帰支援は最重要機能であり、地域包括ケア病棟の看護師は、患者のセルフケア能力の向上や自立を支援し、60日間で患者・家族の望む、納得できる生活の実現に向けて支援を行う必要がある。 地域包括ケア病棟での退院支援に関する研究では、課題の一つとして看護職の退院支援力が挙げられている。患者・家族はときに希望とは異なる治療結果やリハビリテーションの効果といった現実の受け止めや心理的变化から退院先の意向を変更されることがある。それに伴い看護師はケアの見直しや調整を行うことが必要となる。 また、退院支援にはチーム医療も不可欠ではあるが、看護師の実践能力を育成することが退院支援の充実には重要不可欠であることも述べられている。そのため、地域包括ケア病棟の看護師が実践する退院支援の質の向上は喫緊の課題であると考える。			
審査結果	承認 （ 令和6年5月24日 ）		